

はじめに

そよ風やせせらぎの音といった自然の調べは、私たちの心を和ませ、草花や木々のかおりからは、日本の豊かな四季の移り変わりを感じることができます。また、星空の輝きや夕日の光は、自然の偉大さや大切さを私たちに教えてくれます。そして、これらの感覚的な要因は、私たちをリラックスさせてくれるばかりでなく、心にゆとりを与え、疲労の軽減などのさまざまな効果をもたらしています。

しかし、都市化や近代化が進み、利便性や物質的な満足を追求するあまり、「潤い」や「安らぎ」を与えてくれるものが少なくなりつつあります。一方、住民の環境問題に対する関心の高まりとともに、音（聴覚）、かおり（嗅覚）、光（視覚）などの五感に係る感覚的要因を心豊かで健康な日常生活を送るために利用したり、都市の彩りとしてまちづくりに活用する取り組みが全国各地で行なわれるようになりました。

本市においても、平成13年度から「冬の蛍フェスタ」を開催し、冬の風物詩として定着しています。また、環境省からは、平成8年に「遠州灘の海鳴・波小僧」が「残したい“日本の音風景100選”」に、そして、平成13年には「浜松のうなぎ」が「かおり風景100選」にそれぞれ認定されています。

このような背景から、本市では、人々の心へ快適さや豊かさを、また、街へ潤いや彩りを与える音、かおり、光を環境資源としてとらえ、それらを保全し快適な生活環境を創造することを目的として、平成16年10月1日に「浜松市音・かおり・光環境創造条例」を施行しました。そして、市町村合併に伴う条例の全市域への適用により、身近な環境資源の中で次代に残したい、あるいは、地域の誇りとしている音、かおり、光資源を新たに合併した地域から公募するとともに、合併前の資源30選の見直しとあわせ「浜松市音・かおり・光資源百選」として選定しました。

このガイドブックは、自然のみならず、伝統文化や産業なども選定した「浜松市音・かおり・光資源百選」を紹介するために作成しました。多くの住民の皆様が本市に残っている貴重な音・かおり・光を知ることによって、それらに対して関心を持ち、環境資源を守り育てる行動につながるきっかけのひとつになればと願っています。